

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

令和7年度

事業報告書及び決算書

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日



EXPO'90
FOUNDATION

目次

事業報告書

I. 事業

1. 顕彰事業	3
(1) コスモス国際賞	
(2) BIE コスモス賞	
(3) 全国花のまちづくりコンクール事業	
2. 助成・協働事業	5
(1) 花博自然環境助成事業	
3. 普及啓発事業及び国際交流事業	6
(1) 次世代育成事業	
(2) 都市緑化推進運動等への協力事業	
(3) 普及啓発事業	
(4) 周年記念事業	
(5) その他普及啓発事業	
4. 調査研究・資料収集事業	11
5. 附属明細書	12

II. 庶務・管理

1. 理事会・評議員会等	15
2. 内閣府届出及び情報公開	16
3. その他運営体制の充実を図るための取組	16

決算書

III. 財務諸表

1. 貸借対照表	19
2. 正味財産増減計算書	21
3. 正味財産増減計算書内訳表	24
4. 財務諸表に対する注記	27
5. 附属明細書	30
6. 財産目録	31

IV. 監査報告書	35
-----------	----

令和7年度

I. 事業
【公益目的事業】

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

はじめに

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（以下「協会」という。）は、国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の「自然と人間との共生」という理念を継承し発展させることを目的に、各種事業を行っている。

令和7年度は、令和4年度策定の中期計画の4か年目として、事業連携、広報戦略を進め、各事業を着実に実施した。具体には、第32回目の顕彰となるコスモス国際賞や助成事業等の実施の他、2025年日本国際博覧会、2027年国際園芸博覧会に係る取り組みを行った。

1. 顕彰事業

(1) コスモス国際賞

「コスモス国際賞（以下「コスモス賞」という。）」の2025年（第32回）受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施した。

また、2026年（第33回）の受賞候補者の推薦を国内外の推薦人に依頼するため、推薦依頼書を発送した。

ア. 受賞者の選考等

コスモス国際賞委員会（以下「賞委員会」という。）及びコスモス国際賞選考専門委員会（以下「選考委員会」という。）を設置し、次の選考作業を行った。

① 2025年（第32回）受賞者の選考等

- ・令和7年5月8日、5月19日に第1回、第2回選考委員会が開催され、2025年受賞者選考対象139件の推薦に基づき、慎重な選考作業が実施された。
- ・令和7年6月19日に第3回選考委員会及び第2回賞委員会が開催され、2025年受賞候補者にデービッド・アンドリュー・キース博士（豪州・ニューサウスウェールズ大学生態系科学センター教授）が選定された。
- ・選考の経緯及び結果は、令和7年7月15日開催の第126回理事会に推挙され、受賞者として決定した。また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表を実施した。

② 2026年（第33回）受賞者の選考準備等

- ・令和8年1月27日に第1回賞委員会が開催され、2026年（第33回）受賞者の受賞者選考に対して選考方針及び今後の日程等について審議された。
- ・国内外約1,900名の推薦人に対し、受賞候補者の推薦依頼を実施した。

イ. 2025年（第32回）コスモス賞授賞式の開催

国内外からの賓客及び招待者の参列のもと、授賞式を開催すると共に、キース博士を囲み、賞委員会・協会の関係者による祝賀会を開催した。

授賞式 日 時：令和7年10月17日（金）午後3時～5時

場 所：住友生命いずみホール（大阪市中央区）

出席者：約420名

次 第：主催者・来賓紹介

山極壽一賞委員会委員長、池谷和信選考委員会委員長、御手洗富士夫協会会長、栗田卓也協会理事長

マガレット・ホーエン駐大阪オーストラリア総領事、出口陽一国土交通省大臣官房審議官、大塚明伸農林水産省近畿農政局次長、森岡武一大阪府副知事、高橋徹大阪市副市長

2. 助成・協働事業

(1) 花博自然環境助成事業

調査研究や活動行催事を行っている市民団体等を支援する助成事業を、阪急電鉄株式会社からの寄附金を充当し実施した。

ア. 令和7年度助成事業

令和7年度は、別表1の24団体を採択し、総額事業費7,353,460円の助成を行った。

(別表1)

	助成団体名	事業名
調査研究	神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	近年の気候変動が希少トンボ類生息に与える影響調査
	日台里山交流会議	日台里山イノベーションの研究(その3)
	NPO 法人日本高山植物保護協会	絶滅危惧種アンドンマユミの探索と生育域外保全
	特定非営利活動法人山の自然学クラブ	伝統と文化継承を目指した「お祭りの森づくり」
活動・行催事	公益財団法人阿蘇グリーンストック	草原性の絶滅の危機にある植物の生育地保全活動
	生駒山昆虫観察の会	親子で行う生物豊かな森づくり
	NPO 法人伊豆未来塾	南伊豆町漁師の森づくり
	伊吹くらしのやくそう倶楽部	生物調査・観察イベントによる復元棚田の活動推進事業
	公益社団法人園芸文化協会	国際園芸博共創セミナー「園芸文化を育んだ花」
	かたつむりミュージアム・ラセン館	かたつむりミュージアム・ラセン館の普及啓発活動
	公益財団法人金沢子ども科学財団	角間の里山自然探検
	特定非営利活動法人京おとくに・街おこしネットワーク	「京都西山」緑の魅力発信整備計画
	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	世界・日本の宝「水の山・富士山」の湧水を調べよう!
	特定非営利活動法人樹木研究会こうべ	木のお医者さんと学ぶ「樹木の生き方と人との関わり」
	一般社団法人自然再生と自然保護区のための基金	谷まるごと里のいきもの自然保護区プロジェクト
	特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校	白神山地の水辺の生きもの調査観察活動
	公益社団法人日本山岳会 高尾の森づくりの会	広葉樹の植栽及び食害防止策設置事業
	つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を体験的に学ぶ環境学習活動
	奈良・人と自然の会	自然環境教育イベント(自然観察・農事体験・植樹)
	公益社団法人日本植物園協会	日本の植物遺産 伝統園芸と植物園
	庭じかん	花バスケットで住民が集う明るい景観の町中空間を作る
	特定非営利活動法人ひとともしデザイン研究所	京都 五山送り火の伝統の継承とアカマツ林の再生
	福興浜団	菜の花迷路一般開放と菜の花畑整備
	特定非営利活動法人みどり環境ネットワーク!	光が丘公園生き物調査と次世代育成事業

イ. 令和8年度助成事業

令和8年度実施分について公募及び審査を行い、次のとおり助成対象団体を決定した。

① 公募及び審査

公募期間：令和7年7月15日（火）～8月25日（月）

応募数：53件（調査研究8件、活動・行催事45件）

審査期間：令和7年10月～令和8年2月

助成決定団体：25件（調査研究4件、活動・行催事21件）

② 助成対象団体の決定

助成事業審査委員会の結果は令和8年1月14日付けで理事長に答申され、令和8年度の助成対象25件（調査研究4件、活動・行催事21件）を決定した。その後、第128回理事会（令和8年3月）に報告を行った。

ウ. 高校生 Green Action 助成

将来の助成団体を育むため、地域において花や緑の普及、環境保全等に取り組んでいる高校生の活動（部や同好会等）を支援する「高校生 Green Action 助成」について、令和7年度は次のとおり実施した。

公募期間：令和7年5月30日（金）～6月30日（月）

応募数：23校

決定：10校、総額 884,339円

3. 普及啓発事業及び国際交流事業

事業等により得られた成果を広く紹介し、行動変容を促すことを目的に次の事業を行った。

(1) 次世代育成事業

ア. 小学校講師派遣

協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、小学校に派遣する本事業は、対面授業及びオンライン授業にて、別表2の計15校に対し、実施した。

(別表2)

実施日	学校名、学年、児童数等	テーマ	講師	
令和7年	6月12日	富田林市立向陽台小学校 3-4年生 101名	昆虫の体のしくみと生態について	中谷 憲一 (昆虫写真家)
	6月17日	箕面自由学園 3-4年生 57名	昆虫の体のしくみと生態について	中谷 憲一
	6月30日	大阪市立長居小学校 4年生 108名	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫 (大阪公立大学教授)
	7月3日	大阪市立浪速小学校 4年生 82名	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
	7月8日	大阪市立十三小学校 4-6年生 80名	動物の命の不思議	長瀬 健二郎 (天王寺動物園元園長)
	7月16日	大阪市立金塚小学校 6年生 25名	野生動物がすむ森と草原	前迫 ゆり (奈良佐保短期大学教授・副学長)

8月26日	大阪市立北恩加島小学校 3年生 73名	昆虫の体のしくみと生態 について	中谷 憲一
8月27日	大阪市立晴明丘南小学校 5年生 46名	砂漠の水がめスイカ	池谷 和信 (国立民族学博物館名誉教授)
9月9日	大阪市立鶴橋小学校 5年生 30名	カタツムリの不思議な世界	河野 甲 (かたつむりミュージアム 博物館代表)
9月16日	東大阪市教育センター 3-6年生 15名	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
10月27日	大阪市立放出小学校 4年生 90名	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
11月7日	泉佐野第二小学校 4年生 93名	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
11月10日	大阪市立九条北小学校 5年生 46名	野生動物がすむ森と草原	前迫 ゆり
12月1日	豊中市立泉丘小学校 4年生 105名	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
12月8日	八尾市立西山本小学校 5-6年生 101名	野生動物がすむ森と草原	前迫 ゆり

イ. コスモス賞受賞者紹介読本

- ① 受賞者の研究、業績をわかりやすく紹介する受賞者紹介読本（漫画）について、岩槻邦男博士（2016年受賞者）物語、ピーター・ベルウッド博士（2021年受賞者）物語を発刊（各2,000部）し、配付した。
また、次号として、ジャレド・ダイヤモンド博士（1998年受賞者）及びフィリップ・デスコラ博士（2014年受賞者）から制作許諾を得、資料の収集を行い、マンガシナリオの作成を進めた。
- ② 過年度発刊本を、全国の子供たちに配る「寄贈プログラム」として、寄贈を希望する46の学校や施設に送付した。

ウ. ネイチャー甲子園

高校生が動画撮影や生きもの調査により、地域の身近な自然、それに関わる人々の生活等を紹介するコンテスト型の事業、全国高校生「地域の自然」甲子園（通称：ネイチャー甲子園）は、次のとおり実施した。

主 催：当協会、株式会社地域環境計画

協 賛：キヤノン株式会社

後 援：文部科学省、環境省

公募期間：令和7年4月15日（火）～11月28日（金）

応募数：動画クリエイト部門40件、生き物調査部門51件

決勝大会日時：令和8年2月8日（日）午後1時30分～4時

場 所：花博記念ホール（大阪市鶴見区）

出席者：120名（会場参加70名、オンライン50名）

エ. 花博チャンネル

感染症により中止した事業に替わる協会の新しい次世代育成事業である「花博チャンネル」は、次の3件の講義及び自然と人間との共生フォーラム等を動画サイトに掲載した。

「ウミガメの生態からみた環境問題」 米川弥寿代 ウミガメネットワーク三重会長

「次世代につなぐ山守の仕事」 中井章太 吉野町長、中神木材代表

「製材所の仕事」 石橋輝一 吉野中央木材株式会社社長

(2) 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間（4～6月）」および「都市緑化月間（10月）」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力した。

(3) 普及啓発事業

花の万博が開催された地元大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施した。

ア. おおさか都市緑化フェア 2025

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画した。

開催日：令和7年5月25日（日）

場 所：大阪府営服部緑地（大阪府豊中市）

主 催：当協会、大阪府、大和リース株式会社

来場者：約36,000人

イ. みどりのまちづくり賞（大阪ランドスケープ賞）

緑による街づくりを推進することを目的とした第14回みどりのまちづくり賞に参画した。

公 募 期 間：令和7年7月1日（火）～9月15日（月）

主 催：当協会、大阪府、一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

応募数・入賞数：24点・20点

表彰式日時：令和8年1月22日（木）午後2時～4時30分

場 所：大阪歴史博物館「講堂」（大阪市中央区）

来 場 者：約100名

ウ. はならんまん

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画した。

開 催 日：令和7年11月1日（土）、2日（日）

場 所：花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区）

主 催：当協会、大阪市

来 場 者：約49,000人

(4) 周年記念事業

ア. 第2回「人・自然・生命」シンポジウム

2027年国際園芸博覧会(以下「GREEN×EXPO」という。)の機運喚起と共生理念の浸透のため、4回シリーズのシンポジウムを企画し、その第2回を次のとおり開催した。

テーマ：日本人の忘れ物～日本人の自然観～

趣旨：古来より自然を畏怖、畏敬し、その中に身を置いてきた日本人は、二十四節気と七十二候という伝統的な暦をもっていた。光や空気、水の違いを感じ、季節毎の動植物の特徴等を観察していた日本人の感性は、伝統野菜・園芸・果樹、華道、茶道、和歌、俳句等にも展開し、雅と鄙・わびさびという形態、精神文化まで発展した。西欧化により薄れてしまったものは何か、日本人の自然観を探る。

日時：令和7年11月28日(金)午後1時～3時30分

場所：イイノホール(東京都千代田区)

主催：「人・自然・生命」シンポジウム実行委員会

後援：農林水産省、国土交通省、環境省、神奈川県、横浜市

協力：舞台装飾：花いけジャパンプロジェクト、正則学園高等学校花いけ男子部

参加者：約300名

次第：開会挨拶 栗田卓也 当協会理事長

講演① あん・まくどなるど 上智大学教授

講演② 落合陽一 メディアアーティスト

パネルディスカッション

コーディネーター 涌井史郎 GREEN×EXPO ラボ チェアパーソン

パネリスト あん・まくどなるど 上智大学教授

落合陽一 メディアアーティスト

湯浅浩史 一般社団法人進化生物学研究所理事長兼所長

西村明美 京都・柊家六代目女将

GREEN×EXPO2027 紹介 見宮美早 GREEN×EXPO 協会サステナビリティ推進部長

閉会挨拶 河村正人 GREEN×EXPO 協会事務総長

イ. その他

① 大阪市建設局「体験！発見！未来 OSAKA」

令和7年7月24日(木)、25日(金)大阪市が主催する大阪・関西万博会場での催事に賑わいとして「花ずきんちゃん・ミャクミャクのミニタオル」の配布と花ずきんちゃんの出演を行った。

② モナコ公国オリーブの木寄贈に関する記念銘板除幕式

令和8年2月26日(木)大阪・関西万博のモナコ公国に展示のあったオリーブの木の寄贈を受けた大阪市の依頼にて、除幕式に花ずきんちゃんの出演を行った。

③ 「関西は横浜花博を応援するデー」

令和8年3月20日、21日鶴見緑地にて開催の本催事に共催（主催：同実行委員会）し、花の万博展示や花ずきんちゃんの出演を行った。

(5) その他普及啓発事業

ア. 市民への普及啓発を行う連携・協働事業「第4回自然と人間との共生フォーラム《都市生態系～都市に生息する生きものたち～》」を次のとおり開催した。

主 催：当協会、公益社団法人日本動物園水族館協会、公益社団法人日本植物園協会

開催日時：令和8年3月10日（火）午後2時～4時

参加者：約300名（オンラインのみ）

出演者：基調講演

「都市の自然を問いなおす」

横張 真 東京大学総括プロジェクト機構特任教授

プレゼンテーション・パネルディスカッション

「ミツバチが都市（まち）の生態系を豊かにする」

藤本裕昭 NPO 法人梅田ミツバチプロジェクト副理事長

「動物園の森で暮らす生き物」

先崎 優 横浜市立金沢動物園飼育展示係

「都市における社寺林の役割」

名波 哲 大阪公立大学附属植物園園長

コーディネーション

前迫ゆり 奈良佐保短期大学教授・副学長

イ. 広報・報道活動等

- ① 各事業の理解促進・普及を図るためホームページやSNSに事前告知や事業報告等を随時掲載した他、「自然と人間との共生」に関わる話題を提供する協会情報誌『KOSMOS』16号、17号を発刊、配付した。本2巻は、日本人の自然観として「日本人の作法～伝統園芸・野菜・果実」「供養する心のちの連環～〈草木塔〉共生につながる供養の精神」をテーマとした。
- ② コスモス国際賞の最新情報を掲載したパンフレットを作成し、授賞式等で配付した。また、2025年（第32回）受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式等を取りまとめた報告書を作成し、国内外の関係者に配付した。
- ③ 今後開催が計画されている博覧会や各種イベント、花の万博紹介媒体に対し、情報、写真の提供及び花ずきんちゃんの出演を行った。
国・地方自治体等－14件、企業・個人－16件
- ④ 各種行催事等に別表3のとおり協賛・後援・会長賞の交付を行った。

(別表 3)

催事名（開催時期）	開催場所	主催	名義
緑の講演会「都市の緑と生物多様性」 (R7. 6. 28)	京都経済センター6-F (京都市下京区) WEB開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援
第57回ハンギングバスケット展 (R7. 9. 30～10. 13)	咲くやこの花館エルフガーデン (大阪市鶴見区)	鶴見緑地スマイルパートナーズ、咲くやこの花館	後援 会長賞
令和7年度「都市緑化月間」 (R7. 10. 1～10. 31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
水都 ^{もり} おおさか森林の市 2025 (R7. 10. 26)	桜ノ宮合同庁舎・毛馬桜之宮公園周辺 (大阪市北区)	水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会	後援
万博記念公園日本庭園文化財登録記念「国際社会における日本庭園の価値と役割を考えるフォーラム」 (R7. 11. 1)	大阪府立労働センター（エルおおさか）南ホール (大阪市中央区)	大阪府（担当部署：日本万国博覧会記念公園事務所緑地課）	後援
第80回日本おもと名品展 (R7. 11. 22～11. 23)	上野グリーンクラブ (東京都台東区)	日本おもと協会	後援 会長賞
令和7年度第45回伝統庭技研修会 (R7. 11. 27～11. 28)	梅小路公園緑の館 (京都市下京区)	一般財団法人日本造園修景協会	後援
日本フラワーデザイン大賞 2025 (R7. 12. 5～12. 13)	NFD 花ファッションハウス (東京都港区)	公益社団法人日本フラワーデザイナー協会	会長賞
令和7年度大阪府立花の文化園「幼児・小中学生花の絵画展」 (R8. 1. 4～2. 8)	大阪府立花の文化園イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、大阪府立花の文化園	後援 会長賞
私のランドスケープ (R8. 2. 14)	京都経済センター 6-F (京都市下京区) WEB開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援
小品盆栽フェア第34回春雅展 (R8. 3. 27～3. 29)	花博記念公園鶴見緑地内ハナミズキホール (大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
第58回ハンギングバスケット展 (R8. 4. 7～4. 19)	咲くやこの花館エルフガーデン (大阪市鶴見区)	鶴見緑地スマイルパートナーズ、咲くやこの花館	後援 会長賞

⑤ 協会並びに事業の浸透を図るためノベルティを作製した。

4. 調査研究・資料収集事業

花の万博や共生に係る講義等

ア. 令和7年7月11日（金）関西大学総合情報学部にて「花の万博のその効果」と題し、講義を行った。

令和7年7月29日（火）韓国啓明大学生態造形学科学生の来協に際し「花の万博とレガシー」について講義した。

令和7年11月27日（木）梅小路公園開催の伝統庭技研修会にて「みどりの効能」について講演した。

令和8年1月24日（土）鶴見緑地花博記念ホールにて（一社）フラワーサイエティ開催の「ブルーミングフォーラム」にて、講演並びに2027年国際園芸博覧会職員と対談を行った。

- イ. 令和8年3月5日（木）国際シンポジウム「生物多様性へのアクションによるネイチャーポジティブ社会の実現」パネルセッションコーナーにて、生物多様性に係る協会事業の紹介パネルを出展した。

5. 附属明細書

事業における重要な事項は令和7年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特に無いため、当年度の附属明細書は作成しない。

令和7年度

II. 庶務・管理

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

1. 理事会、評議員会等

(1) 第124回理事会 令和7年6月11日(水)

開催場所：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区）

決議事項：令和6年度事業報告及び収支決算について

定時評議員会の招集について

評議員会に提出する評議員候補者（案）について

評議員会に提出する理事候補者（案）について

評議員会に提出する監事候補者（案）について

顧問、参与の選任について

(2) 第125回理事会 令和7年6月26日(木)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：会長（代表理事）、理事長（代表理事）、専務理事（業務執行理事）の選定について

(3) 第126回理事会 令和7年7月15日(火)

開催場所：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区）

決議事項：2025年（第32回）コスモス国際賞受賞者の決定について

(4) 第127回理事会 令和7年12月18日(木)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

臨時評議員会の招集について

(5) 第128回理事会 令和8年3月17日(火)

開催場所：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区）

決議事項：特定資産の取崩しについて

令和8年度資産運用方針書について

令和8年度事業計画及び収支予算について

特定資産の保有について

特定費用準備資金の保有について

助成事業審査委員会委員の選任について

役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について

臨時評議員会の招集について

(6) 第69回評議員会 令和7年6月26日(木)

開催場所：ハービス PLAZA（大阪市北区）

決議事項：令和6年度事業報告及び収支決算書類の承認について

評議員の選任について

理事の選任について

監事の選任について

(7) 第70回評議員会 令和8年1月16日(金)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

(8) 第71回評議員会 令和8年3月31日(火)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

2. 内閣府届出及び情報公開

(1) 内閣府届出(定期提出及び変更届)

① 定期提出書類

令和7年6月開催の理事会、評議員会における令和6年度事業報告及び収支決算の承認を得て事業報告等を令和7年6月末までに、また、令和8年3月開催の理事会における令和8年度事業計画及び収支予算の承認を得て事業計画等を令和8年3月末までに、定期提出書類としてそれぞれ内閣府に提出した。

② 変更届出

評議員及び理事の退任により令和7年6月開催の理事会及び評議員会において新たに評議員等を選任した。これにより役員等に変更が生じたため、変更届出を令和7年7月に内閣府に変更届出を行った。

(2) 情報公開

定款、名簿、財務諸表等を協会事務所に据え置いたほか、協会ホームページにも掲載し、情報公開に努めた。

3. その他運営体制の充実を図るための取組

(1) 外部有識者等の助言、関与及びリスク管理体制

ア 外部有識者による審査体制

当協会が行っているコスモス国際賞、BIE コスモス賞、全国花のまちづくりコンクール及び、花博自然環境助成事業、ネイチャー甲子園及びみどりのまちづくり賞の対象者の選考については、選考の公正性のため外部の有識者等による審査を実施した。

イ 資産運用リスクの管理体制

組織及び事業運営の重要な財政基盤である記念基金等について、リスク低減と安定した収益を確保するための体制として、常勤役員及び管理職で構成する資産運用管理会議を毎月定例実施すると共に、外部有識者を含めた資産運用管理委員会を設置し、年2回運用状況等について調査、確認し、代表理事に報告を行った。

(2) 業務執行の適法性及び監事監査体制の確保

ア 組織全体会議の実施

業務執行状況の情報共有及び危機管理体制の維持のため、常勤役員及び管理職による定例会議を毎月1回開催した。また、役職員が業務の進捗状況及び適正性を組織全体として確認し、課題などに対処するため、毎月1回全体会議を開催した。

イ 任意監査の実施

公益法人会計基準に適合する会計処理及び定期提出書類に関する事項など、公益法人としての法人運営の適正性と監事監査の実効性を確保するため、外部の客観的な評価を受ける体制として、公認会計士事務所による任意監査を実施した。

令和7年度

Ⅲ. 財務諸表

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

1. 貸借対照表

令和8年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	102,479,342	96,758,875	5,720,467
未収収益	107,203,835	78,968,935	28,234,900
流動資産合計	209,683,177	175,727,810	33,955,367
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産定期預金	860,000,000	860,000,000	0
基本財産投資有価証券	29,400,000	29,400,000	0
基本財産普通預金	600,000	600,000	0
基本財産合計	890,000,000	890,000,000	0
(2)特定資産			
記念基金	9,327,476,700	9,475,144,200	△147,667,500
退職給付引当資産	24,568,700	22,974,500	1,594,200
国際園芸博覧会出展事業積立資産	30,000,000	30,000,000	0
法人運営安定化資産	30,000,000	20,000,000	10,000,000
特定資産合計	9,412,045,400	9,548,118,700	△136,073,300
(3)その他固定資産			
什器備品	8	8	0
その他固定資産合計	8	8	0
固定資産合計	10,302,045,408	10,438,118,708	△136,073,300
資産合計	10,511,728,585	10,613,846,518	△102,117,933
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	16,528,955	16,063,732	465,223
預り金	598,943	710,377	△111,434
賞与引当金	2,775,990	2,989,463	△213,473
流動負債合計	19,903,888	19,763,572	140,316
2. 固定負債			
退職給付引当金	24,568,700	22,974,500	1,594,200
固定負債合計	24,568,700	22,974,500	1,594,200
負債合計	44,472,588	42,738,072	1,734,516
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000,000,000	10,000,000,000	0
基本財産運用益	90,000,000	90,000,000	0
特定資産運用益	800,000,000	800,000,000	0

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
特定資産評価差額金等	△672,523,300	△524,855,800	△147,667,500
指定正味財産合計	10,217,476,700	10,365,144,200	△147,667,500
（うち基本財産への充当額）	(890,000,000)	(890,000,000)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(9,327,476,700)	(9,475,144,200)	(△147,667,500)
2. 一般正味財産	249,779,297	205,964,246	43,815,051
（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(60,000,000)	(50,000,000)	(10,000,000)
正味財産合計	10,467,255,997	10,571,108,446	△103,852,449
負債及び正味財産合計	10,511,728,585	10,613,846,518	△102,117,933

2. 正味財産増減計算書

令和7年4月1日 から 令和8年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,256,467	4,240,949	15,518
基本財産受取利息	4,256,467	4,240,949	15,518
特定資産運用益	280,874,972	250,528,961	30,346,011
記念基金受取利息	280,374,972	250,528,961	29,846,011
記念基金投資有価証券償還益	500,000	0	500,000
受取寄付金	3,000,000	3,000,000	0
受取寄付金	3,000,000	3,000,000	0
経常収益計	288,131,439	257,769,910	30,361,529
(2) 経常費用			
事業費	195,261,258	212,468,542	△17,207,284
役員報酬	8,829,856	8,524,726	305,130
給与手当	35,438,057	36,378,931	△940,874
法定福利費	6,132,946	6,173,076	△40,130
退職給付費用	2,251,301	2,132,981	118,320
賃金	1,007,400	2,238,307	△1,230,907
職員厚生費	118,315	131,242	△12,927
会議費	4,372,625	4,021,689	350,936
旅費交通費	5,901,485	5,843,052	58,433
通信運搬費	1,252,140	1,622,125	△369,985
広告費	158,992	1,135,998	△977,006
消耗什器備品費	280,534	43,349	237,185
消耗品費	1,752,910	2,418,584	△665,674
修繕費	0	138,600	△138,600
印刷製本費	611,419	1,040,680	△429,261
光熱水料費	3,058,669	3,504,604	△445,935
役務費	146,636	83,075	63,561
委託費	45,415,177	42,757,495	2,657,682
賃借料	3,672,141	3,382,857	289,284
使用料	3,962,540	2,842,840	1,119,700
保険料	213,472	213,472	0
諸謝金	8,670,425	8,512,587	157,838
租税公課	14,263	44,096	△29,833
支払負担金・会費	9,425,776	28,929,148	△19,503,372
支払助成金	8,237,799	9,320,681	△1,082,882
支払手数料	349,297	330,720	18,577
顕彰賞金	43,663,400	40,110,000	3,553,400
雑費	323,683	593,627	△269,944

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
管理費	49,055,130	54,421,751	△5,366,621
役員報酬	3,784,224	3,653,454	130,770
給与手当	29,075,631	32,940,969	△3,865,338
法定福利費	5,685,537	6,223,910	△538,373
退職給付費用	1,885,599	1,961,819	△76,220
職員厚生費	99,095	120,711	△21,616
会議費	301,912	246,475	55,437
旅費交通費	1,643,220	1,624,780	18,440
通信運搬費	296,152	317,699	△21,547
消耗什器備品費	109,021	18,578	90,443
消耗品費	345,193	450,591	△105,398
修繕費	0	59,400	△59,400
印刷製本費	6,435	0	6,435
光熱水料費	1,310,858	1,501,973	△191,115
役務費	62,007	34,815	27,192
委託費	1,600,533	2,519,641	△919,108
賃借料	1,487,621	1,405,706	81,915
使用料	516,342	533,525	△17,183
保険料	91,488	91,488	0
諸謝金	107,700	107,700	0
租税公課	1,827	14,184	△12,357
支払負担金・会費	500,550	457,070	43,480
支払手数料	121,198	126,313	△5,115
雑費	22,987	10,950	12,037
経常費用計	244,316,388	266,890,293	△22,573,905
当期経常増減額	43,815,051	△9,120,383	52,935,434
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	43,815,051	△9,120,383	52,935,434
一般正味財産期首残高	205,964,246	215,084,629	△9,120,383
一般正味財産期末残高	249,779,297	205,964,246	43,815,051
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	3,000,000	3,000,000	0
受取寄付金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産運用益	4,256,467	4,240,949	15,518
基本財産受取利息	4,256,467	4,240,949	15,518
特定資産運用益	280,874,972	250,528,961	30,346,011
記念基金受取利息	280,374,972	250,528,961	29,846,011
記念基金投資有価証券償還益	500,000	0	500,000

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
特定資産評価損益等	△147,667,500	△316,552,296	168,884,796
記念基金投資有価証券評価損益等	△147,667,500	△316,552,296	168,884,796
一般正味財産への振替	△288,131,439	△257,769,910	△30,361,529
一般正味財産への振替	△288,131,439	△257,769,910	△30,361,529
当期指定正味財産増減額	△147,667,500	△316,552,296	168,884,796
指定正味財産期首残高	10,365,144,200	10,681,696,496	△316,552,296
指定正味財産期末残高	10,217,476,700	10,365,144,200	△147,667,500
Ⅲ 正味財産期末残高	10,467,255,997	10,571,108,446	△103,852,449

3. 正味財産増減計算書内訳表

令和7年4月1日 から 令和8年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,276,941	2,979,526	4,256,467
基本財産受取利息	1,276,941	2,979,526	4,256,467
特定資産運用益	196,612,479	84,262,493	280,874,972
記念基金受取利息	196,262,479	84,112,493	280,374,972
記念基金投資有価証券償還益	350,000	150,000	500,000
受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
経常収益計	200,889,420	87,242,019	288,131,439
(2) 経常費用			
事業費	195,261,258	0	195,261,258
役員報酬	8,829,856	0	8,829,856
給与手当	35,438,057	0	35,438,057
法定福利費	6,132,946	0	6,132,946
退職給付費用	2,251,301	0	2,251,301
賃金	1,007,400	0	1,007,400
職員厚生費	118,315	0	118,315
会議費	4,372,625	0	4,372,625
旅費交通費	5,901,485	0	5,901,485
通信運搬費	1,252,140	0	1,252,140
広告費	158,992	0	158,992
消耗什器備品費	280,534	0	280,534
消耗品費	1,752,910	0	1,752,910
印刷製本費	611,419	0	611,419
光熱水料費	3,058,669	0	3,058,669
役務費	146,636	0	146,636
委託費	45,415,177	0	45,415,177
賃借料	3,672,141	0	3,672,141
使用料	3,962,540	0	3,962,540
保険料	213,472	0	213,472
諸謝金	8,670,425	0	8,670,425
租税公課	14,263	0	14,263
支払負担金・会費	9,425,776	0	9,425,776
支払助成金	8,237,799	0	8,237,799
支払手数料	349,297	0	349,297
顕彰賞金	43,663,400	0	43,663,400
雑費	323,683	0	323,683

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	49,055,130	49,055,130
役員報酬	0	3,784,224	3,784,224
給与手当	0	29,075,631	29,075,631
法定福利費	0	5,685,537	5,685,537
退職給付費用	0	1,885,599	1,885,599
職員厚生費	0	99,095	99,095
会議費	0	301,912	301,912
旅費交通費	0	1,643,220	1,643,220
通信運搬費	0	296,152	296,152
消耗什器備品費	0	109,021	109,021
消耗品費	0	345,193	345,193
印刷製本費	0	6,435	6,435
光熱水料費	0	1,310,858	1,310,858
役務費	0	62,007	62,007
委託費	0	1,600,533	1,600,533
賃借料	0	1,487,621	1,487,621
使用料	0	516,342	516,342
保険料	0	91,488	91,488
諸謝金	0	107,700	107,700
租税公課	0	1,827	1,827
支払負担金・会費	0	500,550	500,550
支払手数料	0	121,198	121,198
雑費	0	22,987	22,987
經常費用計	195,261,258	49,055,130	244,316,388
当期經常増減額	5,628,162	38,186,889	43,815,051
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	5,628,162	38,186,889	43,815,051
当期一般正味財産増減額	5,628,162	38,186,889	43,815,051
一般正味財産期首残高	△14,392,778	220,357,024	205,964,246
一般正味財産期末残高	△8,764,616	258,543,913	249,779,297
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
受取寄付金	3,000,000	0	3,000,000
基本財産運用益	1,276,941	2,979,526	4,256,467
基本財産受取利息	1,276,941	2,979,526	4,256,467
特定資産運用益	196,612,479	84,262,493	280,874,972
記念基金受取利息	196,262,479	84,112,493	280,374,972
記念基金投資有価証券償還益	350,000	150,000	500,000

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
特定資産評価損益等	△103,367,250	△44,300,250	△147,667,500
記念基金投資有価証券評価損益等	△103,367,250	△44,300,250	△147,667,500
一般正味財産への振替	△200,889,420	△87,242,019	△288,131,439
一般正味財産への振替	△200,889,420	△87,242,019	△288,131,439
当期指定正味財産増減額	△103,367,250	△44,300,250	△147,667,500
指定正味財産期首残高	7,231,600,948	3,133,543,252	10,365,144,200
指定正味財産期末残高	7,128,233,698	3,089,243,002	10,217,476,700
Ⅲ 正味財産期末残高	7,119,469,082	3,347,786,915	10,467,255,997

4. 財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっている。

②満期保有目的の債券以外の有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

その他の固定資産

什器備品・・・定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、職員の退職手当支給規程に基づき、
期末要支給額を計上している。

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	860,000,000	0	0	860,000,000
投資有価証券	29,400,000	0	0	29,400,000
普通預金	600,000	0	0	600,000
小 計	890,000,000	0	0	890,000,000
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
記念基金	9,475,144,200	4,424,855,800	4,572,523,300	9,327,476,700
退職給付引当資産	22,974,500	4,136,900	2,542,700	24,568,700
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	30,000,000	0	0	30,000,000
法人運営安定化資産	20,000,000	10,000,000	0	30,000,000
小 計	9,548,118,700	4,438,992,700	4,575,066,000	9,412,045,400
合 計	10,438,118,700	4,438,992,700	4,575,066,000	10,302,045,400

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	860,000,000	(860,000,000)	(0)	-
投資有価証券	29,400,000	(29,400,000)	(0)	-
普通預金	600,000	(600,000)	(0)	-
小 計	890,000,000	(890,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
記念基金	9,327,476,700	(9,327,476,700)	(0)	(0)
退職給付引当資産	24,568,700	-	-	(24,568,700)
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	30,000,000	-	(30,000,000)	(0)
法人運営安定化資産	30,000,000	-	(30,000,000)	(0)
小 計	9,412,045,400	(9,327,476,700)	(60,000,000)	(24,568,700)
合 計	10,302,045,400	(10,217,476,700)	(60,000,000)	(24,568,700)

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	品 名	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	花博会場模型	10,036,290	10,036,289	1
	コスモス国際賞顕彰品レプリカ	2,200,000	2,199,999	1
	ラフロシア(花)標本	4,506,293	4,506,292	1
	DVDレコーダー	165,000	164,999	1
	液晶テレビ	593,620	593,619	1
	ノートパソコン	193,200	193,199	1
	デジタルビデオカメラ	106,500	106,499	1
	プロジェクター	147,000	146,999	1
合 計		17,947,903	17,947,895	8

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産			
第160回利付国債	29,400,000	24,859,950	△ 4,540,050
小 計	29,400,000	24,859,950	△ 4,540,050

6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	4,256,467
記念基金受取利息	280,374,972
記念基金投資有価証券償還益	500,000
受取寄付金	3,000,000
合 計	288,131,439

7 その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の大部分を運用益によって賄うため、債券、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品(仕組債、仕組預金)のみであり、運用限度枠を設けている。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

2. 金融商品の内容及びそのリスク

記念基金に含まれる投資有価証券は、債券、デリバティブ取引を組み込んだ債券(仕組債)が含まれており、発行体の信用リスク、市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク)にさらされている。なお、当該投資有価証券には、リスクが高いものとして、中途解約が著しく制約されていることにより、満期到来までに資金化することが困難な流動性に乏しい債券(仕組債)5,071百万円が含まれている。

3. 金融商品のリスクに係る管理体制

①資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用管理規程及び資産運用基準に基づき行う。

②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

5. 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記3. に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	2,989,463	2,775,990	2,989,463	0	2,775,990
退職給付引当金	22,974,500	4,136,900	2,542,700	0	24,568,700

6. 財産目録

令和8年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金預金				
	現金	手元保管	運転資金として	86,003	
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運転資金として	57,393,428	
		三井住友銀行大阪公務部	運転資金として	36,158,864	
		三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部	運転資金として	5,253,319	
		三井住友信託銀行大阪本店営業部	運転資金として	3,587,728	
			現金預金合計	102,479,342	
	未収収益		公益目的事業及び管理目的の財源として使用する債券等の未収利息	107,203,835	
流動資産合計				209,683,177	
(固定資産)	基本財産	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	600,000
				うち公益目的保有財産である	180,000
				うち管理目的の財源として使用する財産である	420,000
		定期預金	三井住友信託銀行大阪本店営業部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	860,000,000
				うち公益目的保有財産である	258,000,000
				うち管理目的の財源として使用する財産である	602,000,000
	特定資産	投資有価証券	第160回利付国債	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	29,400,000
				うち公益目的保有財産である	8,820,000
				うち管理目的の財源として使用する財産である	20,580,000
				基本財産合計	890,000,000
		記念基金			9,327,476,700
		投資有価証券	関西国際空港20年債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	9,309,282,700
	うち公益目的保有財産である。			6,516,497,890	
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,792,784,810	
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	18,194,000	
			うち公益目的保有財産である。	12,735,800	
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	5,458,200	
	退職給付引当資産			24,568,700	
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	24,568,700	
	国際園芸博覧会出展事業積立資産			30,000,000	
	普通預金	三井住友銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、2027年の横浜国際園芸博覧会出展事業の財源として管理している。	30,000,000	

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定 資産	法人運営安定化資産			30,000,000
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、法人運営安定化の財源として管理している。	30,000,000
			特定資産合計	9,412,045,400
	什器備品	花博会場模型等	公益目的事業及び管理目的の財産として使用している。	8
固定資産合計				10,302,045,408
資産合計				10,511,728,585
(流動負債)				
	未払金	令和7年度助成事業対象者に対する未払額等	公益目的事業及び管理目的の業務等未払い分	16,528,955
	預り金	役職員等に対するもの	源泉徴収税等	598,943
	賞与引当金	職員に対するもの	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	2,775,990
流動負債合計				19,903,888
(固定負債)				
	退職給付引当金	職員に対するもの	職員6名に対する退職金の支払いに備えたもの	24,568,700
固定負債合計				24,568,700
負債合計				44,472,588
正味財産				10,467,255,997

令和7年度

IV. 監査報告書

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日

監査報告書

令和8年5月22日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

会長 御手洗 富士夫 様

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事 北山 諒 一



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事 崎 元 利 樹



私たち監事は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意志疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他必要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上